平成27年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

岩清水遺跡
花立遺跡
芦ノ出遺跡
中沢遺跡

2016

新潟県加茂市教育委員会

平成27年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

岩清水遺跡
花立遺跡
芦ノ出遺跡
中沢遺跡

2016

新潟県加茂市教育委員会

序

我が加茂市は加茂川を中心とした風情ある山紫水明の地として知られ、「北越の小京都」と呼ばれています。豊かな自然環境に育まれた遺跡が、市内のいたるところで確認されており、現在、175か所が遺跡登録されています。

段丘地形の発達した加茂川の上流部では、旧石器時代や縄文時代の遺跡が多く確認されています。逆に市街地のひろがる平野部の方では、古墳時代～平安時代の遺跡が多く発見されています。多様な自然環境に適応し、利用した先人たちの営みが地域固有の貴重な文化財として埋蔵されています。

このような埋蔵文化財包蔵地で土木工事などを行うときは、文化財保護法に基づいた手続きが必要となります。埋蔵文化財包蔵地が工事によってやむを得ず壊される場合は、発掘調査を行い、記録として保存し、後世に引き継ぐことになります。

本書はそうした開発事業と文化財保護との調整をするために行われた試掘・確認調査の結果報告書です。平成27年度には、4遺跡において調査を行いました。いずれも小規模な調査で、大きな成果があるものではありませんが、調査で得られたささやかな知見が各地域における歴史の記録として、今後活用されることを願っています。

このたび、本書を刊行することで、当地域の学術・研究資料として多くの皆様に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護思想が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並びに確認調査に参加された地元の方々、地権者および工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

平成28年7月

加茂市教育委員会

教育長　殖　栗　敏　夫

例　言

1　本報告書は、平成 27 年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した２遺跡における試掘・確認調査と２遺跡の工事立会い調査の記録である。

2　調査は岩清水遺跡が河川改修工事、花立遺跡・芦ノ出遺跡が公共下水道工事、中沢遺跡が宅地造成工事に伴い実施したものである。

3　試掘・確認調査の経費は、国庫および県費の補助金交付を受けた。

4　調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制(平成 27･28 年度)は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教　育　長	殖栗　敏夫
総　括		社会教育課長	金子　正文（平成 28 年３月 31 まで）
		社会教育課長	明田川太門（平成 28 年４月１日から）
庶　務		社会教育課主査	石井美代子
調査担当		社会教育課課長補佐	伊藤　秀和

現場作業員　千葉泰行・中川賢一・中野郁雄（公益社団法人加茂市シルバー人材センター会員）

整理作業員　櫻井恵美子

5　調査記録図面・写真類、出土遺物は一括して加茂市教育委員会が保管している。

6　本書で示す方位はすべて真北である。

7　挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。

8　写真図版３の空中写真は、(株) オリスが平成３年 11 月に撮影した縮尺約 1/12,500 × 83% のものを使用している。

9　引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔　〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。

10　本報告書の執筆と編集はすべて伊藤秀和が行った。

11　遺物の写真撮影はフォーカルに委託した。

12　挿図、写真図版の版組みおよび全体のデジタル編集・データ化は、(有) 不二出版に委託した。

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。(敬称省略・五十音順、機関などは順不同)

池野芳男・小熊博史・立木宏明

(社) 加茂市シルバー人材センター・(株) ジョブ・(株) 山内組・(株) 涌井建設工業

加茂市建設課・加茂市下水道課・新潟県教育庁文化行政課・加茂市文化財調査審議会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　平成 27 年度事業の概要 …… 1

2　遺跡の位置と環境 …… 1

第Ⅱ章　河川改修工事関連 …… 3

1　調査に至る経緯 …… 3

2　岩清水遺跡 …… 3

(1) 遺跡と確認調査の概要 …… 3　(2) 層　序 …… 4
(3) 遺構と遺物 …… 4　(4) 調査のまとめ …… 4

第Ⅲ章　公共下水道工事関連 …… 5

1　調査に至る経緯 …… 5

2　花 立 遺 跡 …… 5

(1) 遺跡と立会い調査の概要 …… 5　(2) 遺構と遺物 …… 6
(3) 調査のまとめ …… 6

3　芦ノ出遺跡 …… 7

(1) 遺跡と立会い調査の概要 …… 7　(2) 遺構と遺物 …… 7
(3) 調査のまとめ …… 7

第Ⅳ章　民間開発関連 …… 8

1　調査に至る経緯 …… 8

2　中 沢 遺 跡 …… 8

(1) 遺跡と確認調査の概要 …… 8　(2) 層　序 …… 9
(3) 遺構と遺物 …… 9　(4) 調査のまとめ …… 9

第Ⅴ章　ま　と　め …… 10

《引用・参考文献》 …… 10

《別　表》 …… 11

1 岩清水遺跡 土器観察表　2 花立遺跡 土器観察表　3 芦ノ出遺跡 土器観察表

《報告書抄録》 …… 巻末

挿図目次

第 1 図　調査対象遺跡位置図 ……2
第 2 図　岩清水遺跡推定範囲と調査対象地位置図 ‥3
第 3 図　岩清水遺跡確認調査トレンチ位置図……4
第 4 図　岩清水遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 ‥4
第 5 図　岩清水遺跡表採遺物 ……4
第 6 図　花立遺跡推定範囲と調査対象地位置図……6
第 7 図　花立遺跡出土遺物……6
第 8 図　芦ノ出遺跡推定範囲と調査対象地位置図‥7
第 9 図　芦ノ出遺跡出土遺物 ……7
第 10 図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図……8
第 11 図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図 ……9
第 12 図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図……9

表　目　次

第 1 表　平成 27 年度発掘調査工程表 ……1

写真図版目次

写真図版 1　【岩清水遺跡】
調査地近景（北西から）　調査地近景（東から）　調査風景（西から）
調査風景（南東から）　1 トレンチ土層断面（南東から）　2 トレンチ土層断面（南東から）
3 トレンチ土層断面（北西から）　出土遺物
写真図版 2　【花立遺跡】
調査地近景（北西から）　調査風景（南から）　調査風景（南から）
調査風景（南から）　調査風景（南から）　土層断面（南から）
出土遺物
写真図版 3　【芦ノ出遺跡】
周辺の空中写真　調査地近景（南東から）　調査風景（南東から）
土層断面（南東から）　出土遺物
写真図版 4　【中沢遺跡】
調査地近景（北東から）　調査地近景（南から）　調査地近景（西から）
調査風景（北から）　調査風景（北西から）　1 トレンチ土層断面（南西から）
2 トレンチ土層断面（南東から）　3 トレンチ土層断面（南東から）

第Ⅰ章　序　　説

1　平成 27 年度事業の概要

加茂市では、市内遺跡の試掘・確認調査については平成 7 年度から国庫補助事業として開始しており、各種開発事業との調整を行う基礎資料を得るために欠かせないものである。調査の対象地は、現在の加茂市の周知の埋蔵文化財包蔵地 175 か所となる。この 175 か所は、昭和 60・61 年度の七谷地区を対象に行われた東部地区詳細分布調査〔川上・長谷川ほか 1987〕と平成 7 年に新潟県教育委員会主催で主に沖積地を対象にして実施された詳細分布調査の成果に負う所が大きい。特に後者の調査は調査後に増加した各種の開発行為において試掘・確認調査を促す上で重要な役割を果たし、中沢遺跡、鬼倉遺跡、馬越遺跡などの大規模な発掘調査につながった。近年、加茂市では大規模な公共工事も一段落し、発掘調査された遺跡の報告書刊行も完了している。これからは、発掘調査で得られた考古資料の公開・活用が大きな課題である。

平成 27 年度の試掘・確認調査は、開発事業に伴い 2 遺跡を対象とし行われた。岩清水遺跡が下条川改修工事、中沢遺跡が民間事業者の宅地造成工事を調査原因とした。また、加茂市の公共下水道事業に伴い、花立遺跡、芦ノ出遺跡、浦ノ山遺跡などで工事立会い調査を行った。今後も小規模な開発であっても事業の計画段階で早期に協議を進め、精度の高い効率的な調査を実施していくことが求められている。このほかに、平成 26 年度加茂市内遺跡確認調査報告書を刊行した。また、加茂城跡の地形測量と報告書の編集作業を進めた。

遺跡名	調　査	調査原因	遺跡の主な時代	月　※現場調査期間												備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
岩清水遺跡	確認	河川改修工事	中世			■										
花立遺跡	工事立会い	下水道工事	縄文・古代					■								加茂市事業
芦ノ出遺跡	工事立会い	下水道工事	中世						■							加茂市事業
中沢遺跡	確認	宅地造成工事	弥生～中世							■						
加茂城跡	測量		中世	■												本書未収載

第 1 表　平成 27 年度発掘調査工程表

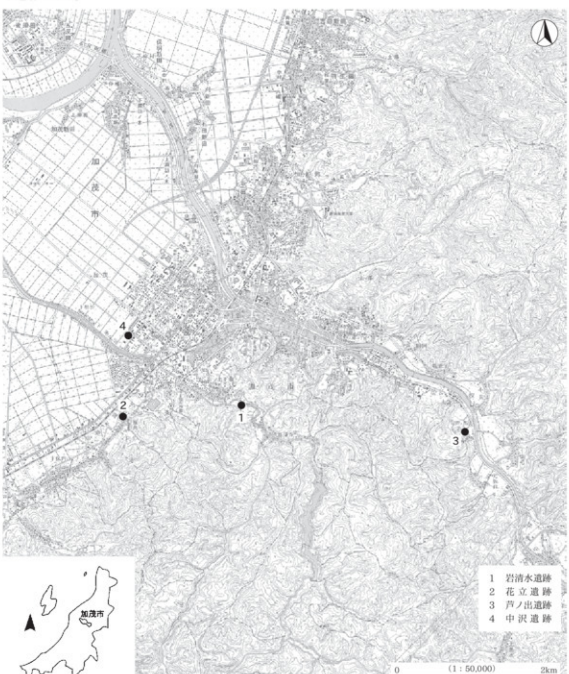
2　遺跡の位置と環境（第 1 図）

加茂市は新潟県のほぼ中央の県央域に位置し、中越地区に含まれる。市域は田上町、五泉市、新潟市、三条市と接している。地勢は東部に高さ 1,000m を超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川が大谷川、高柳川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に注ぐ。加茂川の流域延長は約 11km である。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川およびその支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡が多く分布する。一方、弥生～古代の遺跡はほとんどなく、中世では小規模な山城や信仰

関連遺物が多く確認される。加茂川が東山丘陵を抜けた市街地域には扇状地形が形成され、下条川流域沿いでは弥生時代後期後半頃に集落が形成される。沖積地では古墳時代前期に一段と集落が広範囲に展開し、その後若干の空白期間を挟んで、奈良・平安時代の大規模な遺跡が成立する。

岩清水遺跡（1）は下条川上流の河川縁にあり、後背の丘陵上には戦国時代の山城が立地する環境にある。花立遺跡（2）は下条川左岸で東山丘陵から延びる緩やかな傾斜地に位置する。芦ノ出遺跡（3）は加茂川中流域左岸で、丘陵から延びる緩やかな傾斜地～沖積地にかけて広がる。中沢遺跡（4）は下条川右岸で東山丘陵から緩やかに張り出す扇状地の先端部～沖積地にかけて広がる弥生後期～近世にかけての大規模な遺跡である。



第１図　調査対象遺跡位置図（S＝1：50,000）

（国土地理院　平成14年発行［加茂］・平成22年発行［矢代田］　S＝1：25,000　原図）

第Ⅱ章　河川改修工事関連

1　調査に至る経緯

下条川改修工事に伴う埋蔵文化財の所在の照会は、平成９年に一度行われた。その後、特に協議を行ってこなかったが、平成 22 年から三条地域振興局地域整備部と加茂市建設課、加茂市教育委員会（以下、市教委）で埋蔵文化財の取扱い協議を行い、工事予定区域には周知の遺跡が所在することと遺跡の確認調査が必要であることについて認識を共有してきた。しかし、事業計画の変更や進捗状況の推移などにより、遺跡がある区域の工事が当初計画より遅れる状況が続いた。平成 22 年以降、連絡と協議を重ね、平成 26 年度に三条地域振興局長から埋蔵文化財発掘の通知が提出されたが、用地買収の手続きが完了しなかったことから、確認調査は延期された。そのため、最終的に用地買収完了の目処がつく、平成 27 年度に確認調査を実施することとした。

事務的な手続きは上記の理由により、平成 27 年５月 18 日付け三振地第 127 号の埋蔵文化財発掘の通知が三条地域振興局長から市教委へ、平成 27 年５月 20 日付け民資第 66 号の埋蔵文化財の発掘については、確認調査が必要との意見を付し、新潟県教育委員会教育長宛てへ提出した。その後、確認調査の準備を行い、平成 27 年５月 27 日付け民資第 67 号の埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育委員会教育長宛てに行った。

なお、今回の調査対象地は遺跡の東側の一部のみであり、遺跡本体の中心区域にかかる工事は施工時期が未定であり、今後も継続して協議を重ねる必要がある。

2　岩清水遺跡

（1）遺跡と確認調査の概要（第２・３図）

岩清水遺跡は下条川上流部の左岸で丘陵際の平坦面に位置する。現況はほとんどが畑地で、遺跡の中心は周囲の水田よりも約 2m 高く、現地表面の標高は約 16m である。

第２図　岩清水遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：5,000）
（加茂市　平成３年印刷［加茂市街図その 15］S＝1：2,500　原図）

遺跡は平成７年に行われた新潟県の詳細分布調査により発見され、周知化された。現況が畑地のところから珠洲焼、土師器、青磁の破片が表採され、中世の遺跡と考えられた。後背の南西側にある丘陵上には戦国時代の下条導城城跡が確認され、関係性が注目される。

調査対象地は遺跡推定範囲の東部に位置し、下条川が眼前を流れる。現況は水田で、標高は約 14m である。確認調査は、平成 27 年６月２日に行われた。任意のトレンチを設定し、重機により約 1.2 × 2.5m の大きさで３か所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。調査終了後は転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約 9.2m² である。

(2) 層　序（第４図）

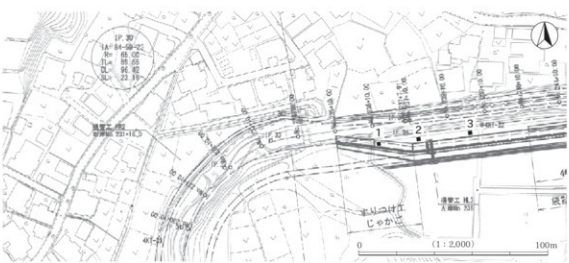
基本土層は、Ⅰ層耕作土、Ⅱ層床土、Ⅲ～Ⅵ層が暗灰色砂質土の堆積が認められる。Ⅲ～Ⅵ層は調査地の環境から下条川による堆積層と判断される。

(3) 遺構と遺物（第５図）

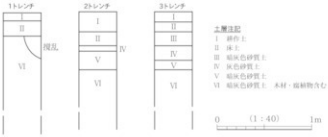
遺構・遺物ともに確認されなかった。１は平成７年の詳細分布調査で今回の調査対象地より一段高い現況畑地で採取した珠洲焼の甕の破片である。外面には 3cm 間で９条のタタキメがみられる。小片のため、詳細な時期は不明である。

(4) 調査のまとめ

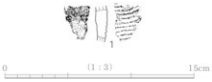
今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺構・遺物は確認できず、遺跡は存在しないものと判断できる。



第３図　岩清水遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：2,000）
（三条地域振興局提供　［暫定掘削計画平面図］　S＝1：1,000　原図）



第４図　岩清水遺跡確認調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）



第５図　岩清水遺跡表採遺物

第Ⅲ章　公共下水道工事関連

1　調査に至る経緯

平成 27 年度は加茂市の公共下水道工事に伴い、花立遺跡、芦ノ出遺跡、浦ノ山遺跡の 3 遺跡について工事立会い調査を行った。年度中に加茂市下水道課と随時協議を行い、ほとんどが掘削幅 1m 未満であることから、工事立会い調査または慎重工事で対応している。工事立会い調査は工事施工業者決定を待ち、工程に沿いながら市教委職員 1 名と作業員 1 ～ 2 名をお願いして、掘削工事の際に立会い調査を実施している。

花立遺跡については 3 か所の工区（①～③）があり、それぞれ文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の通知について加茂市下水道課にお願いした。①平成 27 年 7 月 31 日付け下第 84 号、②平成 27 年 8 月 12 日付け下第 93 号、③平成 27 年 9 月 1 日付け下第 97 号で加茂市長から新潟県教育委員会教育長宛てに通知文書が出された。これを受けて市教委では、埋蔵文化財の発掘については①平成 27 年 8 月 3 日付け民資第 118 号、②平成 27 年 8 月 13 日付け民資第 125 号、③平成 27 年 9 月 3 日付け民資第 151 号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

芦ノ出遺跡も同じく 3 か所の工区（①～③）があり、それぞれ文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の通知について加茂市下水道課にお願いした。①平成 27 年 7 月 13 日付け下第 76 号、②平成 27 年 7 月 30 日付け下第 82 号、③平成 27 年 10 月 5 日付け下第 114 号で加茂市長から新潟県教育委員会教育長宛てに通知文書が出された。これを受けて市教委では、埋蔵文化財の発掘については①平成 27 年 7 月 14 日付け民資第 100 号、②平成 27 年 7 月 31 日付け民資第 108 号、③平成 27 年 10 月 6 日付け民資第 175 号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

浦ノ山遺跡は文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の通知については平成 27 年 10 月 28 日付け下第 122 号で、埋蔵文化財の発掘については平成 27 年 10 月 29 日付け民資第 189 号で提出した。

以下では、遺物が出土した花立遺跡と芦ノ出遺跡のそれぞれ①区について報告する。

2　花立遺跡

（1）遺跡と立会い調査の概要（第 6 図）

花立遺跡は下条川左岸で新津丘陵縁辺の緩傾斜地に位置する。中心部の標高は約 13m である。現況は畑地と水田、宅地である。主に畑地から縄文土器、土師器、須恵器、珠洲焼が採集され、平成 5 年に周知の遺跡として登録された。平成 23 年度と 24 年度に下水道工事に伴い、同様な立会い調査が行われ、古代の須恵器甕が採取されている〔伊藤 2012・2013〕。

立会い調査は遺物が確認された①工区のみ、作業員 2 名を配置し、掘削工事の際に出土した遺物の採取と残土置き場での遺物の発見に努めた。②、③工区は市教委の職員が掘削工事や土層などの状況確認を行った。

(2) 遺構と遺物（第７図）

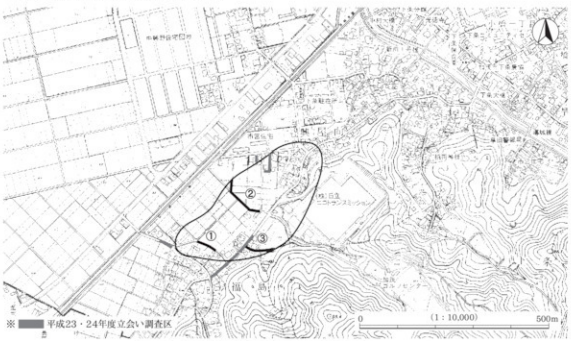
遺構は確認されなかった。遺物は現地表面下約 90cm の黒色土から古代の土師器 41 点、須恵器 14 点、珠洲焼１点が出土した。縄文土器は確認されていない。

１～５は須恵器である。１は小泊窯産の有台杯の高台で、底部外面には右回転のヘラ切り痕が残る。２～４は無台杯で、２は小ぶりの口縁部、３はやや厚手の底部、４は薄手の底部で外面には左回転のヘラ切り痕が残る。２、４は小泊窯産である。５は甕の体部片である。６は土師器無台椀の口縁部である。７は珠洲焼の擂鉢で、内面に明瞭なクロナデ痕と卸目が見られる。

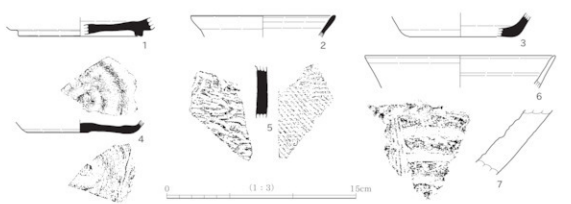
古代の土器で、器壁の厚い３は８世紀代に位置づけされる可能性があるが、ほかは小泊窯産須恵器や器形から概ね９世紀後半頃のものと考えられる。

(3) 調査のまとめ

今回の調査で出土した遺物は過去に採取された遺物の年代と同時期のものであり、一帯に平安時代を中心とした集落が広がることが確認できる。



第６図　花立遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成 20 年印刷［加茂市街図］　S＝1：10,000　原図）



第７図　花立遺跡出土遺物

3　芦ノ出遺跡

(1) 遺跡と立会い調査の概要（第８図）

芦ノ出遺跡は加茂川の中流域で左岸に位置する。現況は水田、畑地や宅地である。丘陵裾部の緩傾斜地で標高は約 33m である。遺跡は平成７年に縄文土器、土師器、珠洲焼の小片が採取されたことから縄文・古代・中世の遺跡として周知化された。

立会い調査は遺物が確認された①工区のみ、市教委の職員が掘削工事に立会い、土層などの状況確認を行った。

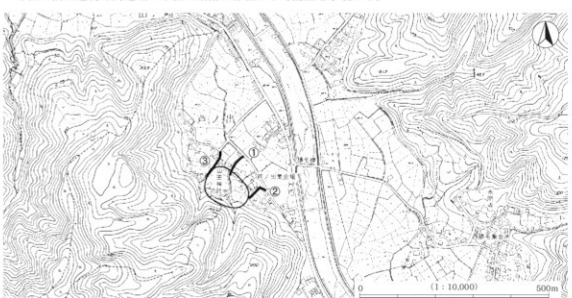
(2) 遺構と遺物（第９図）

遺構は確認されなかった。遺物は現地表面下約 110cm の木片や腐植物を含む土層から近世陶磁器などとともに珠洲焼１点が出土した。土層は自然流路または溝の堆積層と考えられる。

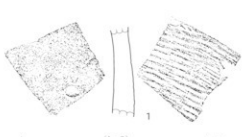
１は珠洲焼の甕の体部片である。外面に 3cm あたり７条とやや幅が太いタタキメが見られる。中世の後半期のものと考えられる。

(3) 調査のまとめ

今回の出土遺物は周辺域に中世の集落が存在する可能性を示唆する。



第８図　芦ノ出遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成 20 年印刷（加茂市街図）　S＝1：10,000　原図）



第９図　芦ノ出遺跡出土遺物

第Ⅳ章　民間開発関連

1　調査に至る経緯

宅地造成工事に関連し、1遺跡に対して確認調査を行った。工事は個人の方が主体であるが、施工業者である（株）ジョブから6月下旬に相談を受け、協議を開始した。計画地は現況水田であり、稲刈り後の確認調査を依頼された。

文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出については、平成27年8月26日付けで施主から新潟県教育委員会教育長宛てに出された。これを受けて市教委では、確認調査が必要と判断し、埋蔵文化財の発掘について平成27年8月31日付け民資第146号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後、稲刈り終了を待ち、関係者と調整を行い調査の準備に入った。文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告については、平成27年9月28日付け民資第167号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

2　中沢遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要（第10・11図）

中沢遺跡は下条川右岸の扇状地の先端部～沖積地にかけて広がり、遺跡の推定面積は約27万m²と広大な範囲が周知化されている。現況はほとんどが水田である。遺跡は平成7年に周知化された後、平

第10図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成20年印刷［加茂市街図］　S＝1：10,000　原図）

第 11 図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：4,000）
（加茂市　平成 17 年印刷［加茂市街図その 11］　S＝1：2,500　原図）

成 8 年以降様々な開発に伴う確認調査、本調査が実施されてきた（伊藤 2005・2008・2011・2012・2013・2014・2015）。調査では現地表面下約 2m の下層面に弥生時代後期の集落跡と約 1m の間層を挟んで上層面に奈良・平安時代の計画的に配置された建物群が確認されている。そのほか、古墳時代前期と中世、近世の遺構、遺物が出土している。

確認調査は、平成 27 年 10 月 1 日に行われた。工事計画予定地内を対象として任意のトレンチを設定し、重機により約 1.5 × 2.5m の大きさで 3 か所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。掘削の深度については、約 2m ほどである。調査終了後は転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約 10.7m² である。

（2）層　序（第 12 図）

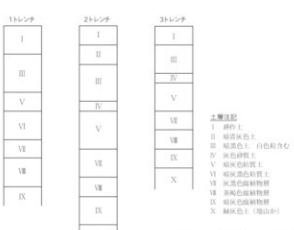
基本土層は Ⅰ層水田耕作土、Ⅱ層暗青灰色土、Ⅲ層暗黒色土、Ⅳ層灰色砂質土、Ⅴ層暗灰色砂質土、Ⅵ層暗灰黒色粘質土で、Ⅶ～Ⅸ層に腐植物層が堆積する。周辺の調査結果を参考にすると、Ⅹ層の緑灰色土が古代の遺構確認面（地山）に対比される可能性がある。

（3）遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認できない。

（4）調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。しかし、隣接する周辺では遺物が出土する区域もあり、遺跡の広がりに留意する必要がある。



第 12 図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）

第Ⅴ章　ま　と　め

本書に収録した岩清水遺跡と中沢遺跡では確認調査、花立遺跡と芦ノ出遺跡では工事立会い調査を行った。いずれも調査は限定された部分のみを対象としていることから、遺跡の詳細は把握できていない。

岩清水遺跡　今回の調査対象地は周囲より一段低いところで、下条川の氾濫の影響を受ける地点と見られる。遺跡の中心は一段小高い畑地にあると推測され、表面採集された遺物からは中世の遺跡と考えられる。

花立遺跡　これまで確認調査を行うような開発行為がないため、遺構は確認されていないが、掘削工事の際の立会いで少量ではあるが、古代～中世の遺物が採取されている。今回の調査では遺物が出土する土層が確認できた。今後の調査に備える上で重要な情報である。

芦ノ出遺跡　僅か１点であるが中世の遺物が採取できた。加茂川中流域両岸の丘陵裾部に類似した環境下で中世の遺物が採取できるところが存在するがいずれも小片によるため詳細は不明な点が多い。今回の調査から現況水田の低い地点にも遺跡が広がることが推測できる。

中沢遺跡　今回の調査対象地は遺跡推定範囲の南部にあたる。既往の調査区域と近接した地点であったが、遺構・遺物は存在しなかった。調査地は地形が低くなり、積極的な活動痕跡を留めない区域と判断される。

本書で報告した４遺跡の調査成果から得られた情報は僅かであるが、各遺跡の基礎資料として蓄積し、今後の埋蔵文化財保護行政に活用したい。今後も、地域史を語る上で重要な資料を遺漏のないように努めたい。

引用・参考文献

伊藤秀和　2005　「第Ⅶ章　まとめ　２　中沢遺跡の調査履歴について」『加茂市文化財調査報告（15）平成15年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2008　「第Ⅳ章２　中沢遺跡」『加茂市文化財調査報告（17）平成17年度　平成18年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2011　「第Ⅱ章４　中沢遺跡」「第Ⅲ章２　中沢遺跡」『加茂市文化財調査報告（22）平成22年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2012　「第Ⅱ章４　中沢遺跡」「第Ⅴ章２　花立遺跡」『加茂市文化財調査報告（23）平成23年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2013　「第Ⅳ章２　花立遺跡」「第Ⅴ章３　中沢遺跡」『加茂市文化財調査報告（24）平成24年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2014　「第Ⅲ章２　中沢遺跡」「第Ⅳ章２　中沢遺跡」『加茂市文化財調査報告（25）平成25年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2015　「第Ⅱ章２　中沢遺跡」『加茂市文化財調査報告（27）平成26年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

小山正忠・竹原秀雄（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）　1967　『新版標準土色帖』（1998年版）　日本色研事業株式会社

川上貞雄・長谷川昭一ほか　1987　『加茂市文化財調査報告（３）東部地区遺跡詳細分布調査報告書～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～』　加茂市教育委員会

別　　表

凡　例

1　残存率　※/36で残存割合を示した。
2　含有物　土器の胎土中に含まれる鉱物等について記した。「石」は石英粒、「白」は白色粒子、「砂」は砂粒、「長」は長石、「海」は海面骨針を表す。
3　焼　成　履歴者の主観的判断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
4　色　調　『新版標準土色帖』(小山・竹原 1967)（1998 年版）の記号を記した。

別表 1　岩清水遺跡　土器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			胎土含有物	焼成	色調		手法			回転方向	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部				外面	内面	外面	内面	底部		
5	1	珠洲焼	壺							石・長	並	2.5Y5/1 黄灰	5Y6/1 灰	格子タタキメ	当て具痕			外面自然釉

別表 2　花立遺跡　土器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			胎土含有物	焼成	色調		手法			回転方向	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部				外面	内面	外面	内面	底部		
7	1	須恵器	有台杯		9.6			3/36		石・白	並	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	小泊
7	2	須恵器	無台杯	11.4			3/36			石・白	並	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	ロクロナデ	ロクロナデ			小泊
7	3	須恵器	無台杯		8.2			5/36		石・長	不良	2.5Y7/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		
7	4	須恵器	無台杯		8.5			8/36		石・白	並	N6/ 灰	10Y5/1 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	小泊、黒色斑点
7	5	須恵器	壺							石・長	並	N5/ 灰	N6/ 灰	格子タタキメ	同心円当て具痕			
7	6	土師器	無台椀	15.0			3/36			石・砂	並	2.5Y7/1 灰白	10YR7/1 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			
7	7	珠洲焼	擂鉢							石・長	並	7.5Y6/1 灰	N5/ 灰	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目			

別表 3　芦ノ出遺跡　土器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			胎土含有物	焼成	色調		手法			回転方向	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部				外面	内面	外面	内面	底部		
9	1	珠洲焼	壺							石・長・海	並	N6/ 灰	N5/ 灰	格子タタキメ	当て具痕			

写 真 図 版

岩清水遺跡　調査地近景（北西から）

岩清水遺跡　調査地近景（東から）

岩清水遺跡　調査風景（西から）

岩清水遺跡　調査風景（南東から）

岩清水遺跡　1トレンチ土層断面（南東から）

岩清水遺跡　2トレンチ土層断面（南東から）

岩清水遺跡　3トレンチ土層断面（北西から）

1

岩清水遺跡　出土遺物（1：2）

花立遺跡　調査地近景（北西から）

花立遺跡　調査風景（南から）

花立遺跡　調査風景（南から）

花立遺跡　調査風景（南から）

花立遺跡　調査風景（南から）

花立遺跡　土層断面（南から）

花立遺跡　出土遺物〔1：3〕

芦ノ出遺跡周辺の空中写真

芦ノ出遺跡　調査地近景（南東から）

芦ノ出遺跡　調査風景（南東から）

芦ノ出遺跡　土層断面（南東から）

1

芦ノ出遺跡　出土遺物〔1：3〕

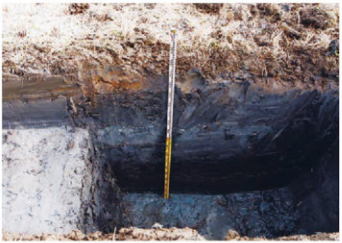
中沢遺跡　調査地近景（北東から）

中沢遺跡　調査地近景（南から）

中沢遺跡　調査地近景（西から）

中沢遺跡　調査風景（北から）

中沢遺跡　調査風景（北西から）


中沢遺跡　1トレンチ土層断面（南西から）

中沢遺跡　2トレンチ土層断面（南東から）

中沢遺跡　3トレンチ土層断面（南東から）

報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちょうさほうこくしょ
書　　名	平成 27 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	加茂市文化財調査報告（29）
編 著 者 名	伊藤秀和
編 集 機 関	加茂市教育委員会　社会教育課
所　在　地	〒959-1392　新潟県加茂市幸町 2 丁目 3 番 5 号　　TEL　0256（52）0080
発行年月日	西暦　2016 年 7 月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
岩清水遺跡	加茂市大字下条字岩清水戊 923-1 番地ほか	15209	134	37 度 38 分 55 秒	139 度 03 分 06 秒	20150602	9.2	河川改修工事
花立遺跡	加茂市大字下条甲 47 番地ほか	15209	104	37 度 38 分 53 秒	139 度 02 分 05 秒	20150820 ～ 20150831		公共下水道工事
芦ノ出遺跡	加茂市大字狭口字芦ノ出甲 833 番地ほか	15209	143	37 度 38 分 47 秒	139 度 05 分 08 秒	20150917 ～ 20150925		公共下水道工事
中沢遺跡	加茂市芝野乙 237 番地ほか	15209	119	37 度 39 分 23 秒	139 度 02 分 05 秒	20151001	10.7	宅地造成工事

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩清水遺跡	遺物包含地	中世		珠洲焼	
花立遺跡	遺物包含地	古代		須恵器	
芦ノ出遺跡	遺物包含地	中世		珠洲焼	
中沢遺跡	集落跡	弥生・古代			

加茂市文化財調査報告（29）

平成 27 年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

岩清水遺跡
花立遺跡
芦ノ出遺跡
中沢遺跡

印刷年月日　平成 28 年 7 月 22 日
発行年月日　平成 28 年 7 月 29 日

発行・編集者　加茂市教育委員会
〒959-1392　新潟県加茂市幸町 2 丁目 3 番 5 号
TEL　0256（52）0080

印　刷　所　株式会社 小野塚印刷所
〒959-1354　新潟県加茂市新町 1 丁目 5 番 16 号
TEL　0256（52）0056